

区分Ⅰ: 社会リハビリテーション (プログラム中心)

私たちは、障害者の「社会復帰」にむけての支援を中心に日々奮闘しています。その「社会復帰」を実現するために、現場では様々なスペシャリストが、色々な角度からアプローチし工夫を重ねています。そのチャレンジのひとつひとつが社会リハビリテーションの礎えとなっています。この区分1では、そういった現場で取り組んでいるプログラムの報告を中心に発表をしていただく予定です。発表に先立ち、お二人の達人によるSWITCHインタビューを企画いたしました。



SWITCH インタビュー

達人 × 達人

相談 & 障害福祉サービス(自立訓練)

～お互いから見えない部分を見てみよう～

- 鈴木智敦 (名古屋リハセンター自立支援局長)
- 川村 圭 (高松市基幹相談支援センター副センター長)

これまでにこんな発表がありました (過去の発表演題の一例)

- ・社会リハビリテーション施設として機能向上を目指して (住まいの場からの報告)
- ・中途脳損傷者の社会生活力向上を支援する取り組みと展望
- ・脳卒中者の公共交通機関利用訓練について
- ・高次脳機能障害者の調理訓練

区分Ⅱ: 就労・復職、地域参加 (事例発表)

今年度より就労定着支援事業が開始となり、新しく取り組まれている事業所もあると思います。また、利用者がスムーズかつ積極的に地域への移行を目指すためには、様々な支援機関との連携が必要なのは言うまでもありません。本区分では、事例報告を中心に演題を募集していますので、全国の皆さんの取り組み、新しいアプローチなどの報告が期待されます。

これまでにこんな発表がありました (過去の発表演題の一例)

- ・青年期発達障害者の就労支援に関するモデル事業終了者の職場支援について～A社へ就職した事例から～
- ・ITを活用した他県の就労継続支援A型事業所との遠隔実習～在宅雇用につながった事例から～
- ・長年引きこもっていた脊髄損傷者の自立支援
- ・多機能型施設から地域移行し就労した1事例

区分Ⅲ: 評価、効果測定の実際

エビデンスという言葉が一般化し、福祉現場でもエビデンスに基づく支援の必要性が求められています。身体能力の向上や高次脳機能障害の評価などは数値化しやすい反面、社会生活力など、「人の持つ力」の評価は数値化しにくくエビデンスを出しにくい現状があります。しかし、全国の仲間たちが様々な手段、方法で評価、効果測定に取り組んでいます。そのチャレンジや現状について報告していただきます。

これまでにこんな発表がありました (過去の発表演題の一例)

- ・生活訓練利用者における自動車運転と神経生理学検査の関係性について
- ・関東ブロックエビデンス検討委員会報告
- ・地域連携、地域移行に必要な生活能力を反映する実用的評価の導入
- ・FIM-FAMによる社会生活力評価の試み
- ・機能訓練事業における総合的評価ツールの検討

